

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年3月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100787		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホームやまだ		
所在地	富山県富山市山田沼又88		
自己評価作成日	平成30年1月29日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は四季折々の美しい景色を眺めながら気持ち良く過ごすことができます。「ゆっくり 楽しく 和やかに」の理念を軸に事業所目標の「明るく笑顔で接します」も大事に思い、穏やかな生活の場を提供しています。そして、母体施設の萩野医院と密に連携を取り、健康管理や看取り介護を実施しています。今後も更に入居者の皆様や家族に信頼されるよう、より質の高い介護を目指します。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年2月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

経営母体である萩野医院との医療連携が確立されており、いつでも適切な医療が受けられ、利用者、家族とも安心して生活している。地域との関わりが大切との思いで、地域の行事には、積極的に参加し、親しみをもって交流が図られている。職員間のチームワークも良く、意見交換も活発に行われ、ケアに活かされている。利用者はリビングから見える緑豊かな環境の中、穏やかに生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームやまだ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎年、研修の機会を設け、理解や認識に努めています。毎朝、その理念と事業所目標を心をこめて唱和し、実践につなげています。	法人共通の基本理念に加え、事業所独自の「明るく、笑顔で、接する」を目標に、職員全員が共有できるよう、研修会やカンファレンス時に、唱和し確認している。日常業務においても、サービスが疎かにならぬよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の保育所からは交流の声をかけてもらい、訪問をしています。当施設の行事、交流会や避難訓練では、地域に声をかけ、相互の協力を得て実施をしています。散歩の際は畑やパークゴルフにいられている方々と声を掛け合っています。	利用者にとって地域との繋がりは大切との思いで、地域の催事には積極的に参加している。近くの保育所へは、利用者と一緒に訪問し、園児の踊りや歌を楽しむなど地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会や避難訓練などの際にいられた方々に対し、当施設の紹介をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実地指導や第三者評価、研修や行事などの報告をし、意見や感想を頂きサービスの提供に活かしています。	運営推進会議は定例的に開催されており、事業所からは、利用者の様子などを報告している。委員からは、利用者のリング狩りに同行し、介助のお手伝いをしたいとの発言もあり、活発に意見交換されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	個人情報の取り寄せの際は行政センターに依頼書を提出しています。今年市より実地指導を受け、指導内容を運営に反映しています。法人本部は市と密に連携を取っており、協力関係が築けています。	実地指導の際に、「ヒヤリハットなどケアの取り組みに対して、きめ細かく記録されている」と評価されるなど、市の担当者に対して、事業所の状況や利用者の様子を伝え、連携を深めるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束について研修を行い理解し、入居者の安全と自立支援を考慮し実践に繋げています。	身体拘束をしないケアについては、機会あるごとに確認し、日常業務においても、身体拘束になっていないか、職員同士で注意している。事業所は山間部にあり、防犯上玄関は施錠されているが、利用者に外出したい素振りがあれば、職員と一緒に前庭に出て散歩するなどケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待について研修を行い、理解に努めています。日頃から職員同士、介護の苦労を解り合い、声を掛け合いながら虐待の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で権利擁護に関する制度を学ぶ機会がありました。今年度は独居の方の入居相談があり、成年後見制度の活用を実際に考えたケースがありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約内容を十分に説明し、理解した上で締結をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	満足度調査や第三者評価のアンケートの意見を大事に思い反映しています。また、日頃から入居者や家族とは、意見や相談などしていただけるよう心掛けて対応しています。	家族の面会時や家族交流会に参加された時に、意見や要望を聞くようにしている。また利用者とは日頃の触れ合いの中で、要望を把握するよう努めており、出された意見や要望は職員全員で話し合い、運営に活かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は日頃から聞いており、管理者から法人の代表者に伝え、運営に反映されたケースがあります。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、職員の意見や要望を聞くよう努めている。職員から出された意見や要望は皆で話し合い、業務に関わる案件は速やかに取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は人事考課制度について学び取り組んでいます。これまでも、代表者や管理者は職員全員の努力や勤務状況を把握し、給与に反映しやりがいと向上心を持ち働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は職員一人ひとりの介護の力量に応じた外部研修受講を勧めています。法人では内部研修を計画し実施しており、学びを現場で活かせるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は同業者と交流する機会をつくるよう勧めています。外部研修に参加した際には、互いの職場状況を語り合い、サービスの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人と面談し、困っていること等を親身に聞いています。入居後も不安なことや要望等に耳を傾け、誠意ある対応をし信頼されるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族と面談し、困っていること、不安や要望などに耳を傾け、誠意ある対応をし信頼されるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や以前の介護支援専門員からの情報、本人や家族の困っていること、入居時の状況から、課題の優先順位を考え、初期の介護計画を立てサービスの提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は家族のように一緒に過ごし、やりたいことと出来る力を知り、互いに支え合い、お礼の言葉をかけあいながら良好な関係へと築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されても、本人にとって家族が一番の頼りであることを話し、できる限り面会に来て頂き、一緒に支えて頂くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子供や孫、弟妹などの面会は自由にしてもらっており、時に自宅へ行かれ、ゆっくり過ごされてくる方もおられます。	家族や友人の面会は自由であり、関係づくりに努めている。家族の協力を得て自宅へ帰ったり、馴染みの店へ買い物に出かけるなど、普段の生活を楽しんでいる。利用者の馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間での席の配置も相性を考慮し決めていきます。入居者同士が関われるよう仲介の支援もしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に変わっていかれた方に、今後も相談に応じることを伝えていきます。死亡により退居となった方には、通夜や葬儀に参列し家族支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の話す言葉や行動、今までの生活歴を知り、思いや意向を把握し、安心して笑顔で暮らせるよう支援をしています。	「なにもしないのが、つまらぬ」と、利用者のつぶやきに、その時の状況や心情を汲み取り、生活歴などで理解するように努めたり、笑顔ある落ち着いた生活を送ってもらえるよう、常に思いや意向の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを知ることが、現在の介護支援に繋がることから把握をしています。本人や家族、これまでの介護支援専門員より情報を得るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は毎日、一人ひとりの過ごし方を見守り介護し記録に残しています。日々、それを読み申し送りを聴いて、全員が現状の把握に努め介護をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人の現状を把握し、思いを聞き、職員全員で課題について話し合い、家族とも相談しながら介護の方法を提案し作成しています。介護計画の基、介護を実施しモニタリングをしています。	「利用者が落ち着いて生活するには、その人らしい笑顔が見られる生活」と考え、職員間で意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映している。状態変化や気づきがあれば、現状に即して見直しを図っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護状況は日誌に毎日、記録をしています。介護の気づきや工夫は申し送りノートに記載し、全員がそれらを読み情報を共有し、介護の見直しにも活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医を受診する際、家族だけでは困難な事があり、職員が付き添い受診をしたケースがありました。また、隣接するデイサービスと賑やかに合同の行事をすることをしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店より毎月、訪問があり整髪や髭剃りの支援が受けられています。施設周囲を散歩し、パークゴルフ場や畑に来ている方々と声を掛け合い楽しんでいます。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明をしています。往診が受けられ、随時、医療連携がとれることから、全員が母体施設の萩野医院を主治医に希望されます。専門医の受診が必要な時には紹介をしてもらっています。	母体法人の萩野医院との連携が図られており、いつでも適切な医療が受けられ、また相談もできる。本人、家族にとって安心して過ごせる体制が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は毎日、介護をしながら体調の異変に気づきがある時は、看護師に報告をしています。看護師は母体施設の萩野医院と素早く連携し、適切な対応をしています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した際、早々に地域医療連携室と連絡を取り、安心して治療が受けられるよう情報提供をしています。退院に向けても早期から相談し、退院が決まると本人と面談をしたり、退院カンファレンスに出席し、今後の生活が安全で快適となるよう支援をしています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの状態と主治医が判断した際には、主治医から家族へ説明をしています。介護支援専門員は本人の病状や思いに合わせ、家族や医師、看護師、介護職員と話し合い、介護計画を立案しています。苦痛の緩和や精神面の支援を行い、最期までその人らしく安心できるようチームで支えています。</p>	<p>終末期に於いては、介護計画の見直しを進めると共に、「看取り介護のポイント」を作成し、職員間で共有することでケアの統一を図っている。最後まで、穏やかに安心して生活してもらうようチームで支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対応マニュアルがあります。急変や事故発生時には管理者に連絡をし、職員間の緊急連絡網を素早く回し対応をしています。先日はAEDが新しくなり講習を受けています。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練は毎年、春は夜間想定、秋は日中の想定で行っています。職員全員が初期消火や通報、避難誘導ができるよう実施しています。地域の消防署や住民の方の協力を得て行っています。</p>	<p>避難訓練の際には、地域住民の参加もあり、車椅子介助や避難誘導の方法などを職員と一緒に体験してもらっている。また防災の日には毎年、備蓄品の点検も行い、見直しをすすめている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念についての研修でも尊重を大事に思うよう伝えています。職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に思い、尊厳と権利を守り介護をしています。否定はせず、同調の姿勢で納得できる対応や介護の工夫をしています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、日常生活を過ごす中で、プライドを損ねない対応に取り組んでいる。ラジオを聴きながら居室で過ごされている利用者には、時々声かけを行い、一人の時間を大切に見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中から話しかけ、行動や表情、態度から思いや希望を知り、一つひとつの事を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムや希望に合わせて、起床や食事などの支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は髪を整えたり、似合う衣類を選んで着て頂くようにし、男性には髭剃りを手伝うなど支援をしています。職員と触れ合い、おしゃれを楽しむ行事を今年も計画しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や食事、片付けをし楽しんでいきます。おやつも好みの甘いものが出るなど喜ばれています。	季節の食材を使った温かい食事が提供されており、利用者は会話を楽しみながらゆっくり味わっている。介助の方には、一口ずつ声かけを行い、自分で食べる意欲を引き出す取り組みを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は観察し必要量が摂れるよう工夫をしています。咀嚼や嚥下に支障のある方には刻み、トロミ剤を使用し、安全に食べられるよう支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を理解し、毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの介助をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄が出来るよう誘導や介助をしています。また、トイレがわかるよう表示の工夫をしています。	日中のトイレでの排泄支援に努め、排泄パターンを活かして時間を見ながら勧めている。便秘の利用者には、職員の提案でベッド上での体操を試みるなど、薬に頼らない排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分摂取や一日分の水分摂取量も気にし、摂ってもらうよう介助をしています。また、乳製品の提供と体を動かすことも行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に抵抗がある方に対し、気持ち良く入浴ができるよう工夫を介助をしています。隣接するデイサービスで入浴もでき、気分を変え楽しむことができます。	体調や希望を聞きながらゆったりとした入浴支援に取り組んでいる。浴槽からの立ち上がりや不安なく浸かるために、手すりの位置を下部に付け替えるなど安全面に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に合せお昼寝をしたり、ソファーを利用し体をやすめてもらっています。日中は気持ち良く活動し、就寝前は安心して声かけ、夜間、眠れるよう支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬は薬剤情報によりいつでも見られるようになっていきます。正確に服薬できるよう声を掛け合い、嚥下するまでも確認しています。薬の追加があれば伝え、症状の観察をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や楽しみごと、できる力に合わせ支援をしています。主婦をしてきた方には家事をして頂き役割が持てたり、好きな歌を歌って気分良く過ごせるよう支えています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は広い緑豊かな庭を散歩し、声を掛け合い気分良く過ごしています。毎年、行事計画を立て、車で花見やあじさい、コスモスの見学に出かけています。地域のりんご園にも行き、採れたてのりんごを食べ笑顔が見られています。また、家族の支援にて自由に外出をする方もいます。	自然あふれる環境の中、外へ出れば四季折々の風景が見られる。お天気を見ては施設周囲を散歩したり、パークゴルフ場を歩くこともある。また併設するデイサービスの車で、地域行事にも参加し、チューリップや菖蒲、コスモスなど季節の花見にも出かけるなど楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中でお金を持っていたい方がおられます。家族の許可を得て少額のお金を持ち、好きなパンなどを買ひ、嬉しそうな姿が見られています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頼りにしている家族と話がしたく、電話をかける支援をしたり、家族から手紙や年賀状が届き、一緒に読んだり、代読をすることをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔な環境で、暖かみを感じられるような空間作りに努めています。そして、季節が感じられるような掲示物を飾っています。室温や湿度にも気を配り、換気も行っています。	廊下の掲示板には、利用者の笑顔の写真と、頑張って取り組んだ学習ドリルなどが掲示してある。雪景色の山々が一望できるリビングでは、お雛様など季節の飾り付けがなされ、温かさを感じられる。ソファでの利用者同士の会話や、本や新聞を読んだりと思い思いに過ごす様子が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子を利用し、気の合う者同士で話ができたり、一人でいたり、思い思いに過ごしてもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や家族写真があり、本人の作品を飾るなど、心地よく過ごせるよう工夫をしています。	馴染みのある家具や家族写真を置いたり、塗り絵作品を飾るなど、家族と共に利用者の落ち着いた居室作りを進めている。また職員のアイディアで、孫の成長写真をタペストリー風に吊るし、家族の温かみを感じられる居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場などに手すりが設置され、過ごしやすい環境になっています。ベッドは電動ベッドを使用しています。また、居室やトイレがわかるよう工夫をしています。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームやまだ  
作成日 平成30年 3月22日

### 【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や災害時などの緊急時に、当施設が地域の方々の避難の受け入れ等ができる体制作りが理想です。	火災や地震、水害等の災害時には、当施設が地域の避難場所となり頼られる施設でありたい。	地域の方々と行事などを通じ、声を掛け合い、馴染みの関係を築きます。火災や災害時では、避難場所や備蓄品の内容と量、避難対応マニュアルを見直し準備をします。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。